

P3-21 加味逍遙散投与、ホルモン補充療法の更年期障害に対する効果の比較—精神神経症状評価スケール、症状推移からみた比較—

更年期不定愁訴治療研究会

樋口 毅, 片桐清一, 真鍋麻美, 斎藤 勝, 橋本哲司, 松本 貴, 前田由子, 蓮尾 豊, 松尾健志, 藤盛嘉章, 小川克弘, 小野大志, 野呂秀逸, 坂本知巳, 高橋秀身, 富浦一行, 丹藤伴江, 高松 潔, 櫻木範明, 蝦名康彦, 大場洋子, 武田真人, 八重樫稔, 田中信一, 吉村泰典, 青木大輔, 牧田和也, 平沢 晃, 富永英一郎, 高橋峰夫, 深谷孝夫, 池上信夫, 和氣徳夫, 加藤聖子, 野崎雅裕, 若槻明彦, 神谷直樹, 水沼英樹, 谷口綾亮, 柞木田礼子, 阿部和弘, 飯野香理

【目的】精神神経症状を含めた更年期障害への、加味逍遙散投与とHRTの効果を経験評価スケールのスコア、および症状の推移から比較すること。【方法】各施設で更年期障害と診断され、治療を希望し、プロトコルに従って観察し得た82例を解析した。インフォームドコンセントのもと無作為に加味逍遙散投与(KSS)群(29例)、HRT投与(HRT)群(24例)、KSS+HRT(併用)群(29例)に分け、自己評価式抑うつ性尺度(SDS)、ハミルトン不安スケール(HAS)、ピッツバーグ睡眠質問表(PSQI)および更年期症状評価表(日本産科婦人科学会作成)で症状を評価した。SDS、HAS、PSQIは投与前、4、8週後のスコア総点の推移を群間、群内で比較した。更年期症状評価表は21項目の症状の投与4、8週時の推移と改善度を各薬剤間で比較検討した。【成績】SDS、HAS、PSQIの各スコアの群間比較ではどの観察時点でも有意差を認めなかった。それぞれの群内比較では、KSS、HRT群ともSDSで投与4週後に有意な改善を認めた。3群ともHASでは投与4週後より有意な改善を認めた。PSQIではHRT群で4週後には有意な改善を認め、KSS、併用群では8週後に有意な改善を認めた。更年期症状評価表で投与前に有症状であった項目についての改善度評価で、KSS群では、寝付きの悪さ、イライラ感、めまい、動悸、手足のしびれに、HRT群では血管運動神経症状を主体に中途覚醒、気分障害、動悸、肩・首のこりに有意な改善効果を認めた。【結論】更年期の精神神経症状に関し、スケールを用いた評価ではKSS、HRTともに同様な効果が認められた。個々の症状に対しては薬剤効果が異なる可能性が示唆された。